

奥の松酒造 最高賞



I W C
日本酒部門

「あだたら吟醸」輝く

【ロンドン共同】世界的なワイン品評会、インターナショナル・ワイン・チャレンジ（IWC）の授賞式が10日、ロンドンで行われ、日本酒部門の今年の最優秀賞「チャンピオン・サケ」に奥の松酒造（二本松市）の吟醸酒「奥の松 あだたら吟醸」が選ばれた。本県の酒が日本酒の「世界一」に輝いたのは3年前の「会津ほまれ」（喜多方市・ほまれ酒造）に続き2度目。

県産酒3年ぶり2度目

奥の松酒造の遊佐丈治社長は「福島がまだ（東日本大震災の）風評被害に遭っている中で素晴らしい賞をいただき光栄に思う」と喜びを語った。

日本国外で最大級の日本酒コンテストであるIWC日本酒部門は、海外での日本食人気を受けて2007年に始まり、今年で12回目。今回は456社の1639銘柄が出品され、いずれも過去最多だった。

5月に山形市で日本酒部門の審査会が開かれ、純米酒や吟醸酒といった酒の種類別に、最高賞に当たる「トロフィー」受賞酒を9部門

で選出。本県からは、奥の松酒造と名倉山酒造（会津若松市）の2銘柄が選ばれた。トロフィーを獲得した9銘柄の中からチャンピオン・サケを選んだ。

適度な価格で高品質な「グレート・バリュール・サケ・アワード」には月桂冠（京都市）の「月桂冠 特撰」が選ばれた。

15年にほまれ酒造

県内では2015年、ほまれ酒造の「会津ほまれ 播州産山田錦仕込 純米大吟醸酒」が「チャンピオン・サケ」を獲得した。

IWCの日本酒部門で「チャンピオン・サケ」に選ばれ、トロフィーを手にする奥の松酒造の遊佐丈治社長（左から2人目）10日、ロンドン（共同）